

大学生の即レス症候群に関する分析

加納 寛子^{†1}

概要: 本稿では、即レス症候群の傾向にはどのような違いがあるのか明らかにすることを目的とした。その結果、性差や年齢に関して即レス症候群の傾向にいくつか特徴が指摘された。そして、即レス症候群は、必要に迫られて即レス症候群になる場合と、無意識型の即レス症候群に大別されることが指摘された。さらに、即レス症候群や既読無視、ネットいじめやコミュニケーションのずれを防ぐためにも、きちんと教育をしてスマートフォンや SNS を使うことの重要性が指摘された。

キーワード: 即レス症候群, SNS, スマートフォン, ネットいじめ

Analysis of the immediate response syndrome for university students

Hiroko KANO^{†1}

Abstract: In this paper, we aimed to clarify whether there is any difference in the trend of the immediate response syndrome. As a result, for gender and age has been pointed out several features to trend of immediate response syndrome. Then, immediately response syndrome were classified into "unconscious type" and "needed type". In addition, in order to prevent immediate less syndrome and read ignored, cyberbullying and deviation of communication, it has been pointed out the importance of the use of smartphones and SNS by a neat education.

Keywords: The immediate response syndrome, Social networking service, Smartphone, cyberbullying

1. はじめに

1.1 インターネットの普及にともなう道具の変容

スマートフォンは、アプリを利用し、写真撮影、動画撮影、文書作成、表計算、プレゼン、PDF ファイルの閲覧、メール、インターネット検索、翻訳など多様なことに使用できる道具である。入力方式は、携帯電話配列、パソコン配列による入力の他に、音声入力も可能である。音声入力でインターネット検索ぐらいであれば、ほとんどストレスなく入力可能だ。原稿を書こうとすると、まだ効率が良いとは言えないが、それは精度の問題であり、近い将来には改良されるであろう。改良された暁には、テープ起こしに類する仕事は、世の中から消滅するに違いない。タイピング練習が役に立つ仕事も、ほとんど消滅するであろう。かつては多くのことを知っている者が賢いとされたこともあったが、今ではインターネットを介して多くのことを調べることができるようになった。人の記憶よりも遙かに膨大なデータを高い精度でコンピュータは保存している。

しかしながら、人々は、物事を覚えることから開放された代わりに、それらよりも高度な知を身につけなければならなくなった。その一つが、多様な情報を収集し読み解き発信する力である情報リテラシーである。例えば、「インタ

ーネットを介して調べる」といっても、Google 等の汎用型検索エンジンを利用し、調べたいことを入力して調べるだけが調べる方法ではない。

また、お行儀良く表計算ソフトウェアの表に並んでいるデータのみがデータではない。多様な文書を解析するテキストマイニングと呼ばれる手法が、研究者の間だけの手法でなくなり、一般のビジネス書等でも扱われるようになり大衆化された。それはビックデータ時代の始まりであり、あらゆる視覚聴覚臭覚などに作用するものしないもの、実態のない情報も収集し分析し咀嚼し適切な判断を下さなければいけなくなった。さまざま情報を収集するために役立つ道具が、パソコンであり、タブレットであり、スマートフォンである。現代と未来に生きる人々にとって必要な道具の一つであることは揺るぎない。

1.2 SNS の普及と即レス症候群の誕生

SNS の普及は、人と人のコミュニケーションのあり方を大きく変えた。SNS が普及する以前は、相手の近況が知りたいと思えば、手紙を出す、電話をする、メールを書くなど、相手に何らかの連絡を取ることによって、相手の近況を把握していた。しかし、最近では SNS を開くと、友達が今どこで何をしているのか、元気であるのか、相手に連絡

^{†1} 山形大学
Yamagata University

を取ることなく相手の近況を知ることができる。

元気になっているようだからと、画面を閉じることはタブーである。近況を伝えたことに対し、【いいね】ボタンを押すなど、何らかの承認を求めているのである。つながっている相手が、20人30人の時は、全員の近況を見て【いいね】ボタンを押す交流は、快適かも知れない。しかし、200人300人につながる人数が増えてくると、皆の近況を毎日チェックし、すぐに返信するためには、日々の日課の中に多大な時間と労力を要することになる。

Goo リサーチの調査^[1]によれば、SNS 疲れになっていると思うことのランキングは、下記の通りである。

- 第1位 毎日 Twitter にベッタリ張り付きでみている
- 第2位 各 SNS と Twitter を連携している
- 第3位 毎日フォロワー数をチェックしている
- 第4位 「いいね！」をつけてほしくて投稿ばかりしている
- 第5位 ソーシャルゲームのお誘いが頻繁にくる
- 第6位 ネガティブツイートばかり目に入る
- 第7位 自分の友達の数が可視化される
- 第8位 他人が Twitter で爆弾発言をしてたたかかれているのが目に入る
- 第9位 会社の付き合いで嫌々友達リクエストを承認している
- 第10位 ネガティブツイートばかりしている

初めのうちは、みんながどうしているのか興味があり、食事中も、通勤途中も、仕事や勉強中でさえ SNS をチェックしていた人も、年中そうしていることに疲れてくるというのが第1位～第5位にも指摘されている要因なのであろう。すぐに SNS をチェックしなければいけないという強迫観念に駆られ、精神的に不安定な状況となることを即レス症候群と命名した^[2]。いち早く返事をくれた相手こそが親友であり、15分経っても返事をしないと、無視をしたからもう絶交だと、着信拒否をされることもある。15分以内(あるいは30分以内)に返事をしないと、青少年のネットワークの中で生き残れないのだ。相手にとって一番の友達であり続けようとするためには、誰よりも早く相手にレスを返す必要があり、いつ何時届くか分からないメールに、いつでもレスができるよう食事中も、入浴中も、勉強中も、床に就くときも、片時もケータイを手放さずスタンバイし、サバイバルするのに必死になる青少年が増えてきているのである。即レスをしなかったことが起因となりネットいじめに発展することもある^[3]。即レス症候群の誕生は、SNS 文化の病理の一つといえよう。

1.3 即レス症候群にまつわる問題点

即レス症候群に陥る青少年のようにメールや SNS ・チャットなどの発言数が多い場合、十分に吟味せずに送信することが多く、意思疎通にずれが生じやすく、誤解を生むこ

とがよくある。誤解によってネット炎上を繰り返したり、険悪な関係となったりすることもある。

逆に、周囲の同世代がスマートフォン等によるインターネットを介したコミュニケーション手段を頻繁に活用する中、頻繁には利用しない主義を貫く内に、その人の悪口を書き込む SNS 掲示板が拡散し、知らぬは本人だけということもある。短期間拡散し、何百何千の悪口が書き込まれた後に、その存在を知った被害者は、不登校や自殺の決意に導かれてしまうこともある。

また、SNS の多くにはグループトークのメンバーがメッセージを確認したかどうかを知ることのできる機能が備えられている。既読マークがつく場合、未読マークが消えない場合など、表示の仕方は様々である。このマークにより、相手が読んだかどうか、書き込んだ側は容易に把握することができる。そのため、読んだのに即レスをしないことを KS (既読スルー・既読無視) と呼び、怒りを掻き立てる場合もある。2013年10月広島県山県郡で、通信制高校に通う19歳の男子生徒に殴る蹴るの暴行を働き、ぐったりした被害者の両足を縛り川に突き落とし、それでも被害者が川からはい上がってきたため、足をライターで火であぶってやけどを負わせたという事件があった。加害者は友人の少年4人(16～17歳)であった。男子生徒は全身に打撲痕があるほか、やけどは皮膚移植が必要なほどの重傷であった。この拷問・殺人未遂をすることになったきっかけは、少年4人(16～17歳)のうち1人が、スマートフォンの無料通話アプリ「LINE (ライン)」での呼びかけを被害者の男子生徒に無視されたことがきっかけだったのである。加害少年4人は既読無視をされたことのために被害少年に対し嗜虐性を募らせ、江戸時代の拷問よりもひどいような仕打ちをした事件等も起きている。

1.4 出口のない悪循環モデル

1.2 の節に示したランキングの第6位に示されているネガティブなツイートは、単に自分のことを悲観し、悲嘆に暮れるものばかりではない。特定の人の悪口や誹謗中傷につながる発言も見られる。深く吟味することなく、フォロワーらが誹謗中傷のコメントに【いいね】をつけ、拡散し始めると、根も葉もないことであつたり、誇張した表現であつたとしても、あつという間にどれも真実であるかのように拡散される。

人が誹謗中傷をする主な目的は2つだけだ。一つは、相手を陥れたいとき、もう一つは、自分をよく見せたいとき。2013年8月に、ネット掲示板2ちゃんねるから3万件以上の会員情報が漏洩するという事件が起きた。その漏洩で、誰が誹謗中傷を書き込んだのかも明らかになった。30歳代のライトノベル小説家が、ライバルの小説家のことを「虚言癖がある」などと攻撃したり、別のライバル小説家に関する出版社が行ったアンケートに対し、「打ち切り確定

なのに資源の無駄」などと批判していた。その一方で、自分のことを「作家買いをする例外中の例外」と、自画自賛していた。ライバルの作家のことを陥れ、自分のことを褒めちぎった書き込みをしたことに対してどう考えているのかという新聞社のインタビューで「相手を見下したい、おとしめたいという漠然とした悪意があった。相手の欠点とみた部分を、一方的に罵倒する書き込みは快感だった」と振り返ったとのことであった。^a

世の中に、完璧な人間などいない。誰しもが失敗することはある。しかし、このライトノベル小説家の一連の事件を見て、最も救われなかったと感じたことは、出版社の判断で行われたと思われる謝罪とは裏腹に、本人への特設のインタビューでは、「快感だった」と答えている点である。自画自賛をしたことへの羞恥心、ライバルの小説家らを陥れる書き込みをしたことに対する罪の意識はほとんど皆無と思われる。

人は、何か失敗をしたときに真価が問われる。成したことに対し真摯に受け止め自戒できる人は成長する。再び同じ過ちを繰り返すことはないであろう。だが、失敗をしたときに、それを時代や環境や他人に責任を押しつけると、貧しいために受験に失敗した、先生の教え方が悪いから自分はわからないのだ、などとまず不満がこみ上げてくる。ネット上の誹謗中傷がなくなるのは、不満は怒りを呼び誰かを攻撃するという図1に示す出口のない悪循環に陥るためである^[4]。

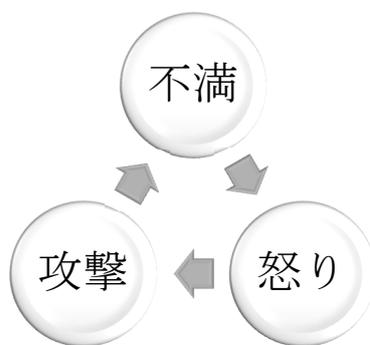


図1 出口のない悪循環モデル
Figure 1 The blind vicious cycle model.

2. 本稿の目的と方法

2.1 本稿の目的

生まれたときからインターネットが普及した環境で育った現代の大学生の中には、片時もスマートフォンを手放せない若者もいる。その一方で、中学生・高校生時代に友達とのSNSつきあいに辟易し、大学生にはいつてからは、一切SNSはやらないことに決めている学生も時々いる。

そこで、性別や大学や居住地、年齢の違いによって、即レス症候群の傾向にはどのような違いがあるのか明らかにすることを本稿の目的とする。

2.2 方法

即レス症候群に関するチェック項目と、性別や大学や居住地、年齢等を尋ねる質問紙を作成し、大学生に対し無記名による質問紙調査を行う。有効回答者数は、232人(男性98人、女性134人)であった。回答者の地域は北海道159人、東北72人、関東1人であった。住まいの環境は、市街地204人、農村8人、山間部8人、漁村2人、無回答10人であった。

下記に加納(2009)による即レス症候群チェックリストを示す。

<即レス症候群チェックリスト>

- 1 ケータイが気になって手放せない。
- 2 気がつくとケータイを触っている。
- 3 ケータイが手の届く範囲にないと不安な気持ちになる。
- 4 ケータイが手の届く範囲にないとイライラした気持ちになる。
- 5 ケータイが手の届く範囲にないと落ち着かない。
- 6 ケータイで高額な請求を受けたことがある。
- 7 15分以上待っても返信がないと不安になったりイライラする。
- 8 深夜にメールが来たらすぐに返信する。
- 9 入浴中にメールが来たらすぐに返信する。
- 10 食事中にメールが来たらすぐに返信する。
- 11 大切な人間関係を、携帯電話が原因で失いそうになったことがある。
- 12 携帯電話なしでは生きていけないと思う。

<チェック数の判断基準>

- 0～4：正常の範囲内
- 5～8：即レス症候群傾向にある
- 9～12：即レス症候群

3. 結果

3.1 性差と項目ごとの即レス症候群

性差と即レス症候群チェックリスト12項目においてあてはまると回答した場合を1点、あてはまらないと回答した場合を0点と得点化して合算した集計結果は表1に示した。表1を見ると、12項目の合計は、男性、女性、合計ともに、4点を下回っており、全体的傾向としては正常範囲の大学生が多いことがわかった。また、女性の72%(96人)男性の76%(74人)が正常の範囲内であった。

性別と即レス症候群チェックリスト12項目のチェック

a 朝日新聞、2013年12月23日、朝刊、39頁

数の集計結果は表2に示した。性差と即レス症候群チェックリスト12項目の集計値について一要因分散分析を行った結果、即レス症候群の集計値は男性と比べて有意に女性の方が高かった($F(1,230)=12.8, p<.05$)。回答者の性別は同数でないため、断定はできないが、男性の即レス症候群あるいは即レス症候群傾向にある人の割合は24%(24人)であるのに対し女性は28%(38人)であり、女性の方が即レス症候群に陥りやすい傾向のあることが示唆された。

表1 性差と即レス症候群チェックリストの集計結果

Table 1 gender gap and immediate response syndrome distribution

		人数	平均値	標準偏差
12項目合計	男性	98	3.17	2.257
	女性	134	3.50	2.109
	合計	232	3.36	2.174
スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せない。	男性	98	1.32	.467
	女性	134	1.48	.501
	合計	232	1.41	.493
気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている。	男性	98	1.61	.490
	女性	134	1.80	.403
	合計	232	1.72	.450
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになる。	男性	98	1.32	.467
	女性	134	1.45	.499
	合計	232	1.39	.489
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないとイライラした気持ちになる。	男性	98	1.05	.221
	女性	134	1.07	.264
	合計	232	1.06	.246
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと落ち着かない。	男性	98	1.38	.487
	女性	134	1.40	.492
	合計	232	1.39	.489
スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがある。	男性	98	1.15	.362
	女性	134	1.05	.223
	合計	232	1.09	.294
返信が15分以上待ってもないと不安になったりイライラする。	男性	98	1.05	.221
	女性	134	1.09	.287
	合計	232	1.07	.261
深夜にメールやメッセージが来たらずきに返信する。	男性	98	1.27	.444
	女性	134	1.14	.350
	合計	232	1.19	.396
入浴中にメールメッセージが来たらずきに返信する。	男性	98	1.05	.221
	女性	134	1.09	.287
	合計	232	1.07	.261
食事中にメールやメッセージが来たらずきに返信する。	男性	98	1.22	.419
	女性	134	1.18	.385
	合計	232	1.20	.400
大切な人間関係を、携帯電話が原因で失いそうになったことがある。	男性	98	1.12	.329
	女性	134	1.11	.316
	合計	232	1.12	.321
スマートフォンや携帯電話なしでは生きていけないと思う。	男性	98	1.63	.485
	女性	134	1.63	.483
	合計	232	1.63	.483

表2 性差と即レス症候群チェックリストの集計結果

Table 2 gender gap and immediate response syndrome distribution

範囲	全体	男性	女性
正常の範囲内	170	74	96
即レス症候群傾向にある	54	20	34
即レス症候群	8	4	4

個別の項目ごとと性差については、「スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せない。($F(1,230)=6.2, p<.05$)」

「気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている。($F(1,230)=10.1, p<.05$)」「スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになる。($F(1,230)=4.1, p<.05$)」「スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがある。($F(1,230)=6.8, p<.05$)」「深夜にメールやメッセージが来たらずきに返信する。($F(1,230)=5.6, p<.05$)」の項目において性差が見られた。

表1の結果と合わせて考えると、スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せないと考えている女性は男性より多いことがわかった。また、気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている、スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになるについても、そのように感じている女性は男性より多いことがわかった。さらに、深夜にメールやメッセージが来たらずきに返信する傾向にあるのも女性は男性より多いことがわかった。しかしながら、スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがあるについては、女性より男性の方があてはまると回答している人が多かった。

このことから、女性はスマートフォンや携帯電話が身近なところにあることにより安心感を得ている傾向にあると同時に手放せなくなっている傾向が見られ、男性は安心感を求めるよりも娯楽の道具として使用する傾向にあるために高額請求の被害に遭いやすいのではないかと推察された。

3.2 年齢と即レス症候群集計結果

年齢と即レス症候群チェックリスト12項目のチェック数の集計結果は図2に示した。分散分析の結果、年齢と即レス症候群の差は有意であった($F(231)=1.2, p<.05$)。ただし、年齢の平均は19.3歳であり分散は2.4であったことから、年齢の偏りが大きく、このデータによって断言することはできないが、年齢が低い人ほど即レス症候群あるいは即レス症候群の傾向が見られた。

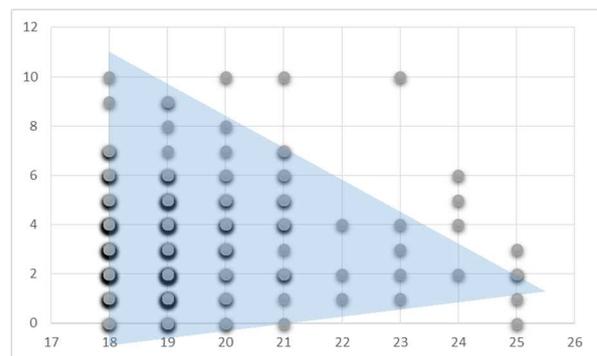


図2 年齢と即レス症候群分布(横軸:年齢, 縦軸:集計数)
Figure 2 Age and immediate response syndrome distribution
(Horizontal axis: age, vertical axis: number of aggregate)

この他、地域差や住まいの環境の差、大学間差なども調べたが、際だった特徴は得られなかった。

表 3 即レス症候群項目間の相関

Table 3 Correlation of immediate response syndrome

		スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せない。	気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている。	スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになる。	スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないとイライラした気持ちになる。	スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと落ち着かない。	スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがある。	返信が15分以上待っても不安になったりイライラする。	深夜にメールやメッセージが来たらすぐに返信する。	入浴中にメールメッセージが来たらすぐに返信する。	食事中にメールやメッセージが来たらすぐに返信する。	大切な人間関係を、携帯電話が原因で失いそうになったことがある。	スマートフォンや携帯電話なしでは生きていけないと思う。
スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せない。	Pearson の相関係数	1	.344**	.247**	.244**	.354**	.060	.237**	.168*	.102	.070	-.002	.288**
	有意確率 (両側)		.000	.000	.000	.000	.366	.000	.010	.121	.291	.981	.000
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている。	Pearson の相関係数	.344**	1	.088	.125	.167*	.038	.065	.112	.028	.070	.107	.243**
	有意確率 (両側)	.000		.180	.057	.011	.563	.325	.089	.670	.292	.105	.000
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになる。	Pearson の相関係数	.247**	.088	1	.291**	.512**	.011	.181**	.052	.045	.043	.176**	.208**
	有意確率 (両側)	.000	.180		.000	.000	.866	.006	.427	.494	.511	.007	.001
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないとイライラした気持ちになる。	Pearson の相関係数	.244**	.125	.291**	1	.291**	.154*	.464**	.226**	.262**	.221**	.123	.127
	有意確率 (両側)	.000	.057	.000		.000	.019	.000	.001	.000	.001	.061	.053
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと落ち着かない。	Pearson の相関係数	.354**	.167*	.512**	.291**	1	.102	.215**	.142*	.147*	.021	.121	.263**
	有意確率 (両側)	.000	.011	.000	.000		.123	.001	.031	.025	.748	.065	.000
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがある。	Pearson の相関係数	.060	.038	.011	.154*	.102	1	.135*	-.010	-.091	.060	.250**	.063
	有意確率 (両側)	.366	.563	.866	.019	.123		.040	.880	.167	.359	.000	.340
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
返信が15分以上待っても不安になったりイライラする。	Pearson の相関係数	.237**	.065	.181**	.464**	.215**	.135*	1	.197**	.365**	.109	.156*	.008
	有意確率 (両側)	.000	.325	.006	.000	.001	.040		.003	.000	.097	.018	.905
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
深夜にメールやメッセージが来たらすぐに返信する。	Pearson の相関係数	.168*	.112	.052	.226**	.142*	-.010	.197**	1	.071	.303**	-.042	.147*
	有意確率 (両側)	.010	.089	.427	.001	.031	.880	.003		.280	.000	.524	.025
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
入浴中にメールメッセージが来たらすぐに返信する。	Pearson の相関係数	.102	.028	.045	.262**	.147*	-.091	.365**	.071	1	.192**	.104	-.095
	有意確率 (両側)	.121	.670	.494	.000	.025	.167	.000	.280		.003	.113	.149
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
食事中にメールやメッセージが来たらすぐに返信する。	Pearson の相関係数	.070	.070	.043	.221**	.021	.060	.109	.303**	.192**	1	-.046	.019
	有意確率 (両側)	.291	.292	.511	.001	.748	.359	.097	.000	.003		.489	.772
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
大切な人間関係を、携帯電話が原因で失いそうになったことがある。	Pearson の相関係数	-.002	.107	.176**	.123	.121	.250**	.156*	-.042	.104	-.046	1	.025
	有意確率 (両側)	.981	.105	.007	.061	.065	.000	.018	.524	.113	.489		.706
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232
スマートフォンや携帯電話なしでは生きていけないと思う。	Pearson の相関係数	.288**	.243**	.208**	.127	.263**	.063	.008	.147*	-.095	.019	.025	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.001	.053	.000	.340	.905	.025	.149	.772	.706	
	N	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232	232

** 相関係数は 1% 水準で有意 (両側) である。

* 相関係数は 5% 水準で有意 (両側) である。

3.3 即レス症候群項目間の相関

即レス症候群項目間の Pearson の相関係数と両側検定による 1%と 5%の有意確率は表 3 に示した。この結果より、「スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになる」×「スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと落ち着かない」において中程度の相関が見られた ($R=.512$)。いずれも、スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安になったり落ち着かないという類似した項目であるため、当然の結果ともいえる。「返信が 15 分以上待ってもないと不安になったりイライラする」×「スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないとイライラした気持ちになる」においても中程度の相関が見られた ($R=.464$) この 2 項目は、いずれもイライラするという文言がはいっており、すぐに返事が来ないとイライラし、すぐにチェックできないとイライラする様子が推察される。

3.4 スマートフォンや SNS 利用に関わる悩み

自由記述形式で、スマートフォンや LINE や Twitter, Facebook 等の SNS 等の利用に関して悩んでいることや不快に感じていることについても尋ねた。

その結果、「私はメールやラインは相手の時間を拘束せずにメッセージのやりとりができることがメリットであり、本質だと思っています。しかし、「既読スルー」という言葉がある通り、すぐに既読・返信しないといけないような雰囲気や文化?があるような気がします。その点に時々ジレンマを感じます。」という記述のように、相手の時間を気にせず連絡ができるというメリットの反面、スマートフォンを持っていればすぐに見られるはずだから、すぐに返事が来て当然という即レス文化に対するジレンマに悩んでいる学生がいた。

また、「スマホが手放せなくて困っている。重要な連絡も来るので 100 パーセント手放せないのが悩み。」というまさに即レス症候群に陥っていることに悩んでいるという記述が見られた。最近では、就職の面接の結果が、携帯電話に連絡が来る場合も多いようだ。重要な連絡故、どうしても手放せなくなるという状況を回避できない社会になっていることにも問題がありそうだ。これはいわば、必要性に迫られた即レス症候群だ。

その一方で、「気がついたら SNS 等を無意識に見ている。依存していると自分でも思う。」という記述に見られるような、無意識型の即レス症候群も見受けられた。

さらに、「友人とやりとりをする際に絵文字を減多に使わないせいで「怒ってるみたい」と言われることがあり、文章の表現の限界を感じます。」という指摘にあるよう、文字だけのコミュニケーションは、対面よりも相手に冷たくとげとげした印象を与えてしまう問題点が指摘された。そのために、絵文字やスタンプなどが流行るようだが、財布をなくしたと落ち込んでいる友達に、励ますつもりで笑顔の

スタンプを送ったら、馬鹿にして笑っていると受け取られ、友人関係が壊れかけたという話を聞いたこともある。文字だけのコミュニケーションには、伝えたいことの一部しか伝わらない、伝えたいことがゆがんで伝わってしまう、誤解を受けやすいなど、コミュニケーション上の悩みが指摘された。

即レス症候群の問題がある一方で、「返信がメンドクサイ」と記述欄に書いている人がいるように、関心がないことには返信をしない既読無視の問題も起きている。返信すべき内容なのに既読無視をしたのでは、適切なコミュニケーションがとれているとはいえない。モンゴルの中学校の情報の教科書では、20 ページ以上 SNS の適切な使い方について学んでいる。そのため、中学生の全員が学校教育の中で Facebook のアカウントを作成し、コミュニケーションの取り方を学校で学ぶ[5][6][7][8][9]。指導との関係性に対する明確な調査はないが、モンゴルでは、青少年の SNS の使用やスマートフォンの使用に関わる問題はほとんど指摘されていない[10]。どのような内容の時には、どれくらいのタイミングで返事をするべきかなど、きちんと教えて使わせることにより、スマートフォンや SNS、即レス症候群などの問題は軽減されるであろう。

一方、若い世代は教えなくてもすぐにスマートフォンを使いこなしていると思われがちだが、「登録、解約の仕方が難しい」という指摘も見られた。実際、無料着うたダウンロードと書かれた文字をクリックしたところ、知らない出会い系サイトにいつの間にか入会したことになっていて、解約がスムーズに行かなかったなどの事例もある。

さらに「LINE の課金制度」を悩みとしてあげている学生がおり、これはおそらく LINE に限定された問題ではなく、ゲームやアプリ全般に共通する問題点といえよう。無料アプリや無料ゲームを利用していつの間にか課金されていたり、無料のケータイ小説を読んでいたら高額な請求が来たという事例もある。

この他、「友達が自分の写真を勝手に載せること。」「Facebook や twitter などで、面識もない友達の友達の投稿やツイートが表示されることが不快です。」など、友達の行為を不快に感じている悩みも指摘された。SNS は、手紙や電話で直接連絡を取っていなくても、友達が元気なのかどうしているのか垣間見ることができ一方で、希望しない画像の UP や投稿を不快に感じているようだ。このような不快感が起きる原因は、UP した画像を見た第三者や UP された他人の気持ちを介さないために、悪意があるわけではないのだけど他人を傷つける結果になっている。このあたりについても、どんな内容にどう応答すべきなのか、応答してはいけないのはどのような時と内容なのか、きちんと教えてから使わせることの必要性が伺えた。

4. おわりに

本稿では、性別や大学や居住地、年齢の違いによって、即レス症候群の傾向にはどのような違いがあるのか明らかにすることを目的とした。その結果、大学や居住地に関しては、際だった違いは見受けられなかったが、性差や年齢に関しては即レス症候群の傾向にいくつか特徴が指摘された。性差に関しては、スマートフォンや携帯電話等が気になって手放せないと考えている女性は男性より多かった。気がつくスマートフォンや携帯電話を触っている、スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと不安な気持ちになるについても、そのように感じている女性は男性より多かった。さらに、深夜にメールやメッセージが来たらすぐに返信する傾向にあるのも女性は男性より多かった。しかしながら、スマートフォンや携帯電話で高額な請求を受けたことがあるについては、女性より男性の方があてはまると回答している人が多かった。このことから、女性はスマートフォンや携帯電話が身近なところにあることにより安心感を得ている傾向にあると同時に手放せなくなっている傾向が見られ、男性は安心感を求めるよりも娯楽の道具として使用する傾向にあるために高額請求の被害に遭いやすいのではないかと推察された。年齢が低い人ほど即レス症候群の傾向が見られた。項目間の相関に関しては、スマートフォンや携帯電話が手の届く範囲にないと「不安になる」と「落ち着かない」の項目間、返信が来ないことへのいらだちと手元にないことに対するいらだちに関して相関が見られた。

そして、自由記述からも、自ら即レス症候群に陥っていることに対する悩みや、コミュニケーション上の悩みなど、様々な悩みが読み取れた。その中で、即レス症候群には、必要に迫られて即レス症候群になる場合と、何となく気がつくとき触っているというような無意識型の即レス症候群に大別されることが指摘された。

また、返信が面倒とする学生がいる一方で、返信がないとイライラする学生もいたり、友達の行為を不愉快に感じたり、コミュニケーションのずれに悩む様子も見受けられ、これらの問題を抜本的に解決するためには、「きちんと教育をして使うこと」の重要性が指摘された。モンゴルでは中学校で全員が SNS を利用し、義務教育の教科書の中に SNS に関して学ぶ内容に十分なページが割かれている。我が国でも、義務教育の中で発達段階に応じて指導していくことにより、スマートフォンや SNS 等の問題点やコミュニケーション上の課題などをきちんと認識できるようになり、即レス症候群や既読無視、ネットいじめや誹謗中傷、コミュニケーション上のずれや、不快な行為を未然に防ぐことができるようになるであろう。

謝辞 即レス症候群の質問紙調査にご協力いただいた、北星学園大学 経済学部 金子大輔 准教授と、質問紙への回答者の方々に感謝する。

参考文献

- [1] "Goo リサーチの調査. 2012 年 01 月 19 日".
http://ranking.goo.ne.jp/ranking/092/social_fatigue_cause/
- [2] 加納寛子. 即レス症候群の子どもたち~ケータイ・ネット指導の進め方, 日本標準(2009).
- [3] 加納寛子. 即レス症候群とネットいじめ. ころの科学 170 号, 日本評論社, pp.72-77(2013).
- [4] 加納寛子. [特集]SNS と子ども社会, SNS 文化の浸透にともなう指導のあり方. 歴史地理教育,819 号, Pp.10-17(2014).
- [5] Tsedevsuren D., Uyanga S, Delgerjav P, Munkhtuya L, Jaabaatar T: "Medeelel zui VI", Admon, Ulaanbaatar (2013)
- [6] Tsedevsuren D., Uyanga S, Munkhtuya L, Jaabaatar T: "Bagshiin Nom Medeelel zui VI", Soyombo Printing, Ulaanbaatar (2013)
- [7] Ц а х и м ү нэмлэхийг энэ сарын сүүлээр олгож э х э л н э о ны 1-р сарын 25, Лхагва гариг,(2012)
- [8] 加納 寛子, Batnasan Batchuluun. モンゴルと日本の情報教育の比較 I オブジェクト概念の形成に関するアンブラグド・コンピューティングに着目して. 日本教育情報学会第 3 1 回年会論文集, Pp.94-97 (2015)
- [9]加納 寛子, Batnasan Batchuluun. モンゴルと日本の情報教育の比較 II モデル化概念の形成に関するアンブラグド・コンピューティングに着目して. 日本教育情報学会第 3 1 回年会論文集, Pp. 318-319 (2015)
- [10]Batnasan Batchuluun, 加納 寛子. モンゴルと日本の情報教育の比較 III SNS に関する教育と利用に着目して. 日本教育情報学会第 3 1 回年会論文集, Pp. 90-93 (2015)

3.1 冒頭部分

誤) あてはまると回答した場合を 1 点, あてはまらないと回答した場合を 0 点と
得点化して合算した

正) あてはまると回答した場合を 2 点, あてはまらないと回答した場合を 1 点と得
点化した. 12 項目の合計に関しては, あてはまると回答した数を数えて得点化し
た(最小値 0, 最大値 12). 各項目については最大値 2 最小値 1 である.